『時 事 直 言』No.836　2013 年 6 月 3 日
時事直言ホームページ：http://chokugen.com
時事直言　携帯サイト：http://mobile.chokugen.com
FAX：03-3955-6466

時事評論家 増田俊男

ラッキー！安倍首相。

4 月 4 日の黒田日銀が異次元金融緩和政策を発表してから日本の株価は「ウナギ登り」で先週の 5 月 23 日は年初来高値 15,942 円を付け 16,000 円に接近した。

ところが同日後場 1,100 円を超える暴落となり、以後下げが続き今日は 512 円安、13,261 円で終わり 5 月の高値から 8 日間で 2,681 円も下がったことになる。

私は 4 月から一貫して「利益確定」を言い続けてきたので「おかげさまで助かりました」という連絡を毎日のように受け取っている。

ニッケイの下げが続いているが、私が「6 月の富士山相場」の理由の一つ、これから発表される「安倍政権による成長戦略の具体案」が株価を一気に押し上げるだろう。

本日の「ここ一番！」で「13,000 円台は目をつむって買い」とアドバイスした。

しっかり銘記しておかねばならぬことは、アメリカの中央銀行である FRB も欧州中央銀行（ECB）も、もうこれ以上総資産中の国債保有比率を高められないところに来ているので緩和出口に向かわねばならないのに、特に ECB の場合、緩和出口どころか、さらに緩和を推進しなくてはならないほど欧州経済は悪化している。

欧州中央銀行と欧州経済双方動きが取れない事態に陥ろうとしているのである。

欧州経済のけん引役で欧州全経済の 30%を占めるドイツ経済までもがリッセッションに向かっているのに欧州市場では連日株高、ユーロも高い。

「異常は必ず正常に戻ることになっている。」

アメリカと欧州の中央銀行が緩和出口を模索しなくてはならないのに、それが出来ないで迷っている時、黒田日銀だけが、これから 2 年に渡って異次元では無く異常金融緩和を行うのだから、日本の株価に限って下がるわけがない。

私は今回のニッケイの暴落でアベノミクスへの過剰期待が削がれてスタートラインに戻ったと表現した。

黒田日銀前夜のニッケイ 13,000 円台が正に出発点である。

「富士山相場」はこれからである。

欧州経済は最悪。アメリカ経済も経済ファンダメンタルズは住宅価格の上昇が続いているので家計の含み資産が増え、消費が押し上げられているので悪くないが、金融、不動産等マネー産業を除けば決して成長しているとは言えない。

私は今後円高で年内 FRB の緩和出口はリップサービスだけで実際にはあり得ないのと日本の長期金利市場でドル・円は 92 - 88 円で安定すると見ている。

この水準なら日本経済は先進国中最も安定的成長を続けることが出来る。

世界的経済マクロで見ても「日本は買い」である。

参院選まではニッケイは上昇を続けるので安倍政権は楽勝！

しかし「富士山相場」は長くは続かず、9 月で一服入れる。

6 月 6 日の「増田俊男の目からウロコのインターネット・セミナー」でさらに突っ込んだお話をいたします。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前に株式会社増田俊男事務所（℡03-3955-6686）までお知らせ下さい。